

おかやまグリーン成長支援事業

LCAセミナー

～製品のCO₂排出量の見える化に取り組む業界動向～

世界的に脱炭素に対する流れが加速する中で、製造業においてもLCA（ライフサイクルアセスメント）の重要性が増えています。こうした中、県では、県内企業がLCAの概要や取り巻く環境などを学び、今後対応していく力をつけることを目的に、LCA導入の意義や経営面での活用について理解を促進する「LCAセミナー」を開催しますので、ぜひご参加ください。

参加無料

2024 8.6 火
13:00～17:00

～会場～

ピュアリティまきび

(岡山市北区下石井2丁目6-41)

第一部

13:05～14:05

『サプライチェーンCO₂データ見える化に向けた取り組みと成果』

Green x Digital コンソーシアム

見える化WG 主催

いながき こういち

稲垣 孝一 氏

Green x Digitalコンソーシアムの見える化WGでは、多様な業種の企業が参画し、カーボンニュートラルの促進等に向け、CO₂排出量の可視化を目指しデジタル技術を活用した企業間データ連携の実証実験を行ってきました。

CO₂見える化の重要性、CO₂排出データ算定ルール、算定したデータの企業間連携のための技術仕様、それらルールと仕様の実証を通じて得られた成果や今後の課題をご紹介します。



第二部

14:05～14:45

『旭化成におけるLCAの活用について』

旭化成株式会社

サステナビリティ推進部 課長代理

むらかみ たける

村上 岳 氏

旭化成は、さまざまな業種に素材・部材を供給する企業として、ライフサイクル全体の視点を持ちながら、カーボンニュートラル社会実現に向けた取り組みを推進しています。製品のライフサイクル全体を通じて環境負荷低減をする「環境貢献製品」や製品単位でのCFP（カーボンフットプリント）算定・活用は、顧客や社会の期待に応える上で重要な要素です。本講演では、これらの取り組みの基本的な考え方と課題認識を中心に紹介します。



休憩 14:45～15:00

第三部

15:00～16:00

『インフラ企業のLCAの取組み』

株式会社東芝

シニアエキスパート

のだ

ひでき

野田 英樹 氏

インフラ企業ではライフサイクルアセスメント（LCA）の実施枠組みであるISO14040の1997年の発行以降、様々な取組を進めてきました。また、2011年にはGHGプロトコルガイドラインが発行されるなど、現在ではCO₂排出量の算定に関する様々な動きが見られます。

本講演では、LCAを取り巻く環境の変化を俯瞰したうえで、様々な算定ルールやその課題、インフラ企業としての東芝の取組み、更には業界活動として（一社）日本電機工業会の取組みを概説します。



第四部

16:00～17:00

『電子部品メーカーによるLCAへの取組み』

TDK株式会社

サステナビリティ推進本部 安全・環境・ソーシャルグループ 担当課長

よこやま りょう

横山 亮 氏

TDKは1999年からLCAに取り組んでいます。特定の製品を対象としてスタートしたLCAへの取組みですが、その後、社会および顧客からの要求に応えるため対象範囲を広げ、現在ではLCAを基本とする手法が様々な形で活用されています。今回の講演では、電子部品メーカーであるTDKの環境関連活動において、LCAを基本とする手法がどのように活用されてきたかを具体例を挙げながら紹介していきます。

お申込み
方法

下記URLまたはQRコードからお申し込みください

https://www.optic.or.jp/okayama-ssn/event_detail/index/3289.html

2024年7月30日（火）17:00まで ※定員50名になり次第締め切らせていただきます

【事務局】公益財団法人岡山県産業振興財団

担当：河原・井ノ江・橋元・田原

ものづくり支援部 研究開発支援課

☎：086-286-9651 ✉：green@optic.or.jp

【主催】岡山県（委託先／公益財団法人岡山県産業振興財団）

